

小学校図画工作

1 GIGAスクール構想のもとでの小学校図画工作科の指導について

(1) 図画工作科における学習指導要領とICT活用の関係（ICTを活用する際のポイント）

- ① 資質・能力の育成と関連付けて活用する。
- ② 感性や想像力を働かせる場面を大切に活用する。
- ③ 発達の段階や経験に応じて適切に活用する。

※ 実際にもものに触れたり見たりすることが、図画工作科の資質・能力の育成において重要である。→学習のねらいに応じてその必要性を十分に検討し、活用することが大切である。

(2) ICTの効果的な活用例

- ① 感じたことや想像したことなどを造形的に表す場面
 - ア 造形遊びをする活動において
 - ・ 造形的な活動ができそうな候補の場所をICT端末で撮影し、グループで相談する際の資料とする。
 - ・ 自分たちの活動を撮影し、更に新たな発想や構想をする際のきっかけにする。
 - イ 絵や立体、工作に表す活動において
 - ・ プログラミングの機能から表したいことを見付け、身の回りの材料を使って表し方を工夫して工作に表す。
 - ・ 形や色、コンピュータの特長、構成の美しさなどの感じを考えながら、表現に適した方法などを組み合わせるなどして、動くもようをつくる。
 - ・ デジタルカメラやICT端末でコマ撮りした画像をコンピュータで編集し、アニメーションをつくる。
- ② 作品などからそのよさや美しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める場面
 - ア インターネットなどを用いて美術作品についての情報収集をする。
 - イ 生活の中の造形をICT端末などで撮影し、話し合う際の資料とする。
 - ウ 活動の過程や作品をカメラ機能を使って撮影し、クラウドなどに保存して、自分の表し方の変化を振り返ったり、感じたことや考えたことを友人と共有したりする。

(3) 創造性を大切にする態度を養うことから

- ① 様々な情報などを主体的に取り入れながらも、自ら考え工夫するような創造活動の意味や価値が実感できるよう、一人一人の児童が、自分にとって新しいものやことをつくりだそうとすることを大切にされた指導を積み重ねることが重要。
- ② 一人一人の児童の創造性に着目しつつ、それ自体が文化や生活、社会そのものをつくりだす態度の育成につながるという視点を指導のあらゆる場面で持つておくことが必要。

2 小学校図画工作科における学習評価について

(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

(例) 図画工作 第1学年及び第2学年「造形遊び」の「内容のまとめり」

<「思考力、判断力、表現力等」に関する内容>

「A表現」

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること

< 「知識及び技能」のうち「技能」に関する内容 >

「A表現」

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

< 「知識及び技能」のうち「知識」に関する内容 >

[共通事項]

(1) ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。

< 「思考力・判断力・表現力等」に関する内容 >

[共通事項]

(1) イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

② 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

(例) 図画工作 第1学年及び第2学年「造形遊び」の「評価の観点」

< 「知識・技能」 >

- ・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。
- ・ 身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫しつくっている。

< 「思考・判断・表現」 >

- ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのような活動にするかについて考えている。

< 「主体的に学習に取り組む態度」 >

- ・ つくりだす喜びを味わい楽しく表現する学習活動に取り組もうとしている。

(2) 学習評価の進め方

- ① 題材の目標を作成する。
- ② 題材の評価規準を作成する。
- ③ 「指導と評価の計画」を作成する。

【授業を行う】

- ④ 観点ごとに総括する。

(3) 評価の具体について

- ① 「知識・技能」(知識)の評価
対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。
- ② 「知識・技能」(技能)の評価
材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。
- ③ 「思考・判断・表現」の評価
形や色などの造形的な特徴を基に自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。
- ④ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
- ⑤ 作品からの評価
完成した作品を見直すことで、観察や対話で捉えたことを確かめたり、表現の変化や、そこで育まれた資質・能力を把握したりすることができる。

3 参考となる資料等について

- (1) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校図画工作
(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)